一般社団法人　京都わかくさねっと

２０２２年度事業報告

（２０２２年４月１日から２０２３年３月３１日まで）

１．概要

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化するなかで、若年女性の生きづらさが社会的に可視化された１年でした。少女たちは、虐待や暴力、貧困、いじめ、過度な親からの過干渉などで生きづらさを抱え、相談できる相手もおらず、自身の抱えている状況にも気付かず、社会の中で孤立するなかで、自傷やひきこもり、または居場所を求めて「トー横」や「グリ下」に集まり、あるいはSNSに本音を言える関係を求め、犯罪や性的搾取の温床になっていることが社会問題にもなりました。それらは、女性を取り巻く制度の問題でもあり、とくにコロナ禍において、弱者への差別や蔑視、バッシングは、より激しくなりましたが、そのようななかで、２０２２年「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が制定され、そこには、女性が自らの意志を尊重し自立できる社会の実現が掲げられました。

少女を取り巻く環境が揺れ動く中で、当法人は、少女たちが心豊かに自分らしく生きるために、地域のなかで信頼できる関係を築き、「つながる・よりそう・そだてる」をキーワードに、以下の３つのことを軸にして事業に取り組みました。

①居場所づくり‥地域のなかに少女の居場所を作る。安心・安全な関係性を築き、悩みを打ち明けられる場を作る。多様な人たちとの交流や学びのなかで、少女自身が自己に向き合う場を作る。

②寄り添い支援‥とくに支援の必要な少女に対して、継続的に寄り添い、支援を行う。必要な少女に対しては、宿泊等の提供を行う。

③チャレンジの場…地域のなかで少女の役割を作る。少女たちの自分の思いや言葉を発信する機会を作る。

とくに2022年４月から少女たちが主体に運営する体制で再出発した「わかくさリビング」では、週３日、手作りの晩ごはんを一緒に食べ「話を聴く」「相手を否定しない」「秘密を守る」の３つの約束を守りながら、１５３日間、延べ１０１６人の少女と繋がることができました。少女たちを含めたそこに関わる人たちは、営みの中で、居場所が自分たちの大切なものだと捉え、居場所のなかで起こりうるさまざまな課題や問題に向き合うなかで、場を作っていき、それらは自身を振り返る機会となりました。

世界ガールズデーに開催した「京都わかくさねっと活動展」（2022.10.1～11）では少女たちが自ら発信した言葉をパネル化しました。少女たちは社会にアプローチする力があることを認識した一方で、少女たちの抱える生きづらさは、貧困や孤立、青年

期特有のものという認識や、従来の相談支援で対応できない「少女たちの叫び」が書かれており、少女たちの思いや言葉そのものに目を向ける必要があることを認識しました。

今年度は、当初から資金の目途が立たず、また組織運営の脆弱性等を指摘されることもありましたが、振り返ってみますと顔の見える仲間や多くの関係者に支えられ、何よりも少女たちから大きな気付きを得た１年でした。また多くの少女たちが、就職や進学、自立など、新たな一歩を踏み出すことができ、それらは大きな喜びになりました。

少女たちの育ちをともに見守り、ご指導、ご支援くださいましたみなさまに心より感謝申し上げます。

関わりの中で確認した活動の方向性

①安心と安全、自由が尊重され、お互いを尊重することを重視した「居場所」
- 「相談」「支援」「教育」ではない、本人の何でも話せる関係性をつくる
- 実現のために専門家とのネットワーク、約束事の整備が必要、

②少女が主体であること-少女のチャレンジと自主性を活かした運営。
- 関わる人は全員平等であること。少女たちを信じ任せる場であること。回復（自己統合）できる機会があること。
- 実現のために対等な立場で関わるサポーターの存在が必要。

2022 年度活動事業

・タケダ・女性のライフサポート助成プログラム
・京都市生きづらさを抱える若年者の居場所づくり等支援事業
・左京区まちづくり活動支援事業「わかくさカフェ左京区事業」
・上京区民まちづくり活動支援事業「少女の避難基地わかくさカフェ上京区事業」
・京都府地域交響プロジェクト「少女の繋がりの場づくりと地域での包摂支援事業」
・京都地域創造基金こども未来プロジェクト基金助成（～2023.6.30）
・京遊連社会福祉基金「生きづらさを抱えた少女の居場所事業」助成

2022 年度活動回数

２３６回（わかくさリビング１５３日、カフェ６０日、地域イベント等２３日）
・わかくさに繋がった少女　延べ１２８７名
・関わったスタッフ（少女スタッフ含む）延べ６７０名
・NINIROOM 日帰り部屋利用　　１５名
・NINIROOM 宿泊利用　　７４日
・寄り添い支援　対応時間　４６２．５時間

２．事業実施内容

２－１　少女主体のシェアリビング「わかくさリビング」事業【タケダ助成事業】

地域のなかに安全な居場所をつくり、安心して話をできる環境と食事の提供、および少女たちが主体となって実施するプログラムを提供した。

①「わかくさリビング」運営　京都市上京区相国寺門前町烏丸ビル２階

日時　毎週水・木・金曜日　15：00～20：00　計 153 日

来所少女：1016 人

スタッフ（少女スタッフ主）：462 人

②参加型体験講座、ワークショップ等【京都市事業】

・京都の伝統文化体験

実施回数：計 10 回

来所者：　63 人、スタッフ 40 人

内容：祇園祭、五山送り火、お月見、西陣体験、お正月の準備、ひな祭り等

・ウクレレ教室　回数：10 回、講師：クロ氏、

・成人式着付　回数：3 回、人数：8 名

③地域開放「わかくさリビング地域の日」【上京区事業】

実施回数：計 8 回（土日 14：00～）

来所者：56 名、スタッフ（少女含む）32 名

内容：レゴワーク、お灸講座、ひな祭り、ウツ体験語り、地域活動への話合い等

２－２　わかくさカフェ事業

地域の団体や企業と連携し、少女の居場所「わかくさカフェ」を開設した。

①hostelNINIROOM　ホステルと連携。【左京区事業】

・毎週火曜日の居場所の実施とおひるねと食事の提供（部屋、食事は毎日対応）

・まちの相談室（第 1，5 火曜）、心理士さんと語る（第 2 火曜）手芸等ワーク（第 3 火曜）、ココロの日（第 4 火曜）、など、週毎のメニューを設定し、専門の講師を招いて、さまざまなワークを実施した。

・昨年度好評であった浴衣の着付教室と提供は、今年度 11 名の少女に実施。

・8 月からは、SSW および公認心理師がスタッフとして参加することで、進路指導、就職支援等、来所する少女に対して継続した支援を実施することができた。

・実施回数：計 52 回

・来所者：　212 人、スタッフ 178 人

②ラメール三条　女性のためのコレクティブハウスとの連携【京都市事業】

・8 月より毎月第 4 火曜日 18：00～22：00、併設のネパールダイニングにて開設。

・毎回テーマを決めて講演と対話を中心としたワークを実施。

・実施回数：計８回（うち 1 回は大雪警報のため講義→スタッフ検討会に変更）

・来所者：　51 人、スタッフ 30 人

③連携団体・亀岡わかくさねっと　【亀岡地区更生保護女性会有志主催】

・毎月第3日曜日10：00　生きづらさを抱える人たちのために居場所を開放

・実施回数：計12回（うち公開講座6回）

２－３　寄り添い支援事業【京都市事業】

①寄添い支援

・寄添い、医院や行政への同行、相談相手

・シェルター利用、問い合わせ等の対応

・ケース会議出席、連携機関とのやりとり等

・関わった時間：462.5時間　関わった回数：213回、スタッフ延べ数：41名

・SVの回数：6回、心理専門家の指導（4ヶ月)、コーチング（1回）

②短期シェルター

〇hostelNINIROOM

宿泊の提供　74日　・一時利用（日帰り）15日

〇その他施設

宿泊　4日

２－４　保護・支援

・交通費提供　960名　【京遊連事業】

・カフェでのランチ提供　220名

・その他、自転車、下着、日用品等の生活必需品の提供

２―５　地域活動参加、普及啓発・

①京都わかくさねっと活動展「少女たちの小さな叫び」

・共同主催：京都市男女共同参画センター

・後援：京都朱雀ライオンズクラブ、京都新聞社、NHK京都放送局

・日時：10月1日（日）～11日（火）11日間　9：00～21：00

・場所：京都市男女共同参画センター「ウイングス京都」1階ギャラリースペース

・内容：少女たちによるメッセージと写真展示、少女たちを取り巻く社会の現状等
パネル80枚、写真200枚、リビングの居場所再現等

〇関連企画　「わかくさカフェ　まちの相談室　出張版」

・内容：女性のための、からだと悩み、オフレコ座談会

・日時：10月4日15：30～17：00　1階ギャラリースペース

・講師：京大病院産婦人科医師　池田先生

②左京地域イベント参加【左京区事業】

・NINI縁日　日時：10月22日　場所：NINIROOM　内容：手作りおはぎと小物販売

・左京区クリスマスマーケット　日時：12月17日　場所：北山ふれあいセンター
内容：サンタさんへお手紙を書こう

③上京地域イベント参加【上京区事業】

・上京まちづくりフェア出展　日時：10 月 16 日　場所：西陣織会館　内容：「少女たちの小さな叫び展」、カードゲーム

・バザールフィエスタ 2022 出店　日時：11 月 23 日　場所：京都バザールカフェ　内容：お面を作ろう

２－６　講義・活動の周知等

①京都わかくさねっと活動報告会【京都市事業】

・日時：10 月 11 日 18：30～20：00

・場所：ウイングス京都 2 階会議室

・内容：講義＝居場所の必要性と回復について（龍谷大学大学院石塚伸一教授）
報告会＝活動報告と今後の展開についての意見交換

・参加者：26 名

②第 4 回京都府生きづらさを抱える「若いひとたち」居場所づくり研修　話題提供者

・主催：京都府、龍谷大学 ATA-net 研究センター

・日時：1 月 26 日　13：30～15：30

・場所：龍谷大学深草キャンパス至心館１階、矯正・保護総合センター

・内容：課題共有型“えんたく”会議形式にて、わかくさリビングの活動をもとに若年層の生きづらさの要因やその発見過程、居場所や環境づくりの意義、支援を巡る問題等の共有。

・参加者：府庁内および京都府下の自治体の関係部局担当者、青少年の健全育成支援や非行防止に携わる団体関係者等約 30 名。

③その他講義

○山科地区更生保護女性会総会講義「わかくさねっとの活動」

日時：4 月 21 日

場所：ラクト山科会議室

参加者：山科地区更生保護女性会会員

スタッフ：北川、井上

○滋賀県竜王町人権啓発セミナー「女性の人権・生きづらさを抱える少女たち」

日時：11 月 16 日 14：30～17：30

場所：竜王町防災センター

参加者：一般市民

スタッフ：齋藤、井上

○つぎの西陣をつくる交流会にて　活動プレゼン

日時：11 月 30 日　19：00～21：00

場所：京都信用金庫西陣支店２階「クリエイティブコモンズ NISHIJIN」

スタッフ：澤田、井上

○長岡京市女性支援講座「若い女の子たちのいま」

日時：3 月 6 日　10：30～12：30
場所：バンビオ 4 階学習室
スタッフ：北川、井上

〇その他、朱雀ライオンズクラブ、鴨川ライオンズクラブ等での活動発表

④大学等での授業提供

・京都産業大学法学部服部ゼミ
・京都光華女子大学社会福祉学講義（千葉先生）
・京都女子大学発達教育学部児童学科講義（浦田先生）
・同志社大学社会福祉学科（プロジェクト科目）

⑤メディア掲出

・4 月 5 日京都新聞朝刊社会面「若い女性につながりを」
・4 月 15 日 KBS 京都笑福亭晃瓶ほっかほかラジオ
・10 月 6 日朝日新聞京都版「苦しむ少女たちの居場所に　活動展」
・2022.12 号　龍谷大学大学院地域公共人材総合研究プログラムニュースレター
「ひとはひとりでは立ち直れない」更生保護からの少女支援　齋藤常子

⑥発行物

・わかくさだより vol.3（2022.8）「わかくさリビング」活動スタート
・わかくさだより vol.4(2023.3)地域とつながる「京都わかくさねっと」の取組み
・わかくさカフェショップカード

⑥HP、SNS 等の発信

・HP　法人情報掲載（定款、活動報告書、貸借対照表）
・Facebook（2022.4.1-2023.3.31）投稿数 341、リーチ 6972
・Instagram（2022.4.1-2023.3.31）リーチ 3732、アクセス 5025

⑦クラウドファンディング

・京都地域創造基金プロジェクト「少女の居場所・わかくさリビングをつくりたい」
2022 年 3 月 22 日～2023 年 3 月 31 日
目標金額　5,000,000 円／

２－７　調査研究、ネットワークづくり

・龍谷大学大学院法学研究科修士論文「少女が生きづらさを感じない社会をつくるために必要なこと」(2022 年度)
・日本更生保護学会自由発表
・日本ソーシャルイノベーション学会論文発表
・龍谷大学大学院地域公共人材総合研究プログラムでの研究
・京都市孤独・孤立に関する連携協定
・就労支援や居所支援に対応できるノウハウとネットワーク基盤作り

２－８　会議等

①法人理事会

・7／8　理事会

・10／11　理事会

・11／23　理事会

②来所者と理事との対話「ご招待日」

・9 月 21 日

・10 月 19 日

・11 月 16 日

・12 月 21 日

・1 月 18 日

・2 月 15 日

・3 月 15 日